

新善光寺寺報 北 縁

2017年5月

Vol. 35

# ほくえん

特集 宮の沢別院 新たなステージへ!

お寺活用シリーズ 「新善光寺でお葬式ができます」

名古屋・建中寺にて



## 宮の沢別院 新たなステージへ

新善光寺宮の沢別院は、浄土宗未開の地であった札幌西部地区に平成19年建立し早くも今年で10年の歳月が経ちました。

今後を見据えた時、別院の寺門興隆、更には地域社会への念仏布教の拠点として活動していく上で、どの様にすべきかを協議を重ね、今後は別院を新善光寺から独立した寺院として寺門運営をさせて頂く運びとなりました。

それに伴い、名称を「新善光寺宮の沢別院」から下記の通り、「清瑋寺」とこの度正式に寺号公称することをご報告申し上げます。

これからも檀信徒の皆様への信仰・ご供養の一助となるよう新善光寺並びに清瑋寺の寺門興隆により一層努めてまいります。

檀信徒の皆様におかれましては、別院の名称が変わることに際し、混乱とご不便をお掛けしますが、今まで通り新善光寺の別院という立場での活動・運営を行ってまいります。

ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

新善光寺 住職 太田 眞琴

### さいえんざん こうどいん せいしょうじ 「西縁山 廣度院 清瑋寺」になります

寺院の名称は、〇〇山〇〇院〇〇寺と3つの名称をあわせたものが寺院の正式名称となるのです。

新善光寺を例に挙げると…

北縁山 廣度院 新善光寺（ほくえんざん こうどいん しんぜんこうじ）となります。

新善光寺は開山当時、東京にある大本山・増上寺の別院としてススキノの地に開かれたお寺であります。

増上寺の正式名称を三縁山 廣度院 増上寺といい、三縁山から別称「縁山」とも呼ばれています。新善光寺は増上寺の別院ですので、北の「縁山」から「北縁山」といい〇〇院と呼ばれる院号はそのまま増上寺と同じ廣度院となりました。

この度、宮の沢別院の名称を西縁山廣度院とした由縁も増上寺から続く系譜を受け継ぎ、札幌西地区にある「縁山」として、また西方極楽浄土を表す意味も込めました。

そして当寺院の顔となる名称「清瑋寺」の由来は、手稲の麓から阿弥陀様のみ光が、清らかなる玉（清瑋）のごとく札幌の地に広がりゆくことを願い清瑋寺と称しました。



清璋寺 住職 紹介



おおた こうけん  
太田 光顯

昭和 57 年に生まれ、豊水小学校、中島中学校と進み、平成 16 年に大正大学人間学部仏教学科を卒業し、同年より埼玉にある蓮馨寺に奉職。平成 19 年より宮の沢別院主管として従事し別院の興隆に努める。

清璋寺の寺号公称に伴い清璋寺住職を拝命させていただくこととなりました太田 光顯と申します。

宮の沢別院建立から 10 年間、別院主管（別院責任者）として別院法務に従事しておりました。

浅学非才の身ではありますが清璋寺の寺門興隆と教化に精進努力する所存でございます。また下記の通り 10 月 8 日に晋山式を予定しております。

これからの宮の沢別院改め清璋寺をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 清璋寺第一世・晋山式の案内

平成 29 年 10 月 8 日（予定）

晋山式とは、新命（新しく住職となる者）が初めて住職として寺院に入る儀式で「晋」とはススムで「進」と同じ意味であり、「山」は「寺」のことです。この晋山式を済ませるまでは、一寺の住職としての扱いをしてもらえないのが昔からのしきたりで、僧侶にとって一世一代の大事事で、古来より厳重な慣例に守られてきた慶儀であります。

### 宮の沢別院の歩み



建立前



地鎮式（平成 18 年）



上棟式（平成 19 年 5 月）



入仏式（平成 19 年 10 月）



落慶法要（平成 20 年 9 月）

ぎよき えいたい し どうほうよう  
御忌・永代祠堂法要のご案内

6月18日(日) スケジュール

- 午前 10 時～ 合葬墓前にて法要  
(納骨されている全精霊位様をご回向します)
- 午前 11 時～ 上演 (右ページ参照)  
………… 昼食休憩(お参りの皆様に昼食を用意しています) ……………
- 午後 1 時～ 本堂にて御忌・永代祠堂法要

「御忌」とは念仏の元祖・法然上人の忌日法要のことです。大永4年(1524)に後柏原天皇が下された「大永の御忌鳳詔」で、“毎年正月、京畿の門葉を集め一七昼夜にわたって御忌をつとめ、はるかに教えの源をたずねよ”によります。

法然上人のご生涯は、み仏の限りない慈悲の光の中に生かされ、限りない生命の歓びをかみしめるために只“南無阿弥陀仏”をとなえよと私達にお勧め下さったことにつき、そのみ教えは今も私達の中に輝いています。

また、御忌法要と合わせて、永代祠堂の精霊 1391 霊位(個々の霊位に関しましては別紙にてご案内しております)をご回向させていただいております。

是非、ご家族お揃いでお参りいただき念仏をとなえて法然上人のみ教えの遙かに源をたずね、ご先祖様に思いを馳せていただきたく存じます。

新善光寺では随時、永代祠堂を受け付けております。

永代祠堂  
一霊位様二十万円



本堂での法要



合葬墓前での法要



上 演

# 大人も子供もみんなで楽しむお寺で人形芝居！ ～ひとり人形芝居「さんまのおふだ」「紙芝居」～



“浄土宗の劇団ひとり”  
滋賀教区甲賀組 浄観寺

やまぞえ しんかん  
山添 真寛 師

1968 年生まれ

自称“浄土宗の劇団ひとり”としてお寺での各種法要での上演を中心に、幼稚園や保育園など全国各地で「一人人形芝居・紙芝居」を上演している。

「ひとりで来てひとりで準備、ひとりで公演してひとりで片付けてひとりで帰る。  
だから、私、山添真寛は浄土宗の劇団ひとり、なんです」

(フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジンから)

今回はなんと“お坊さんによる人形芝居”を皆さんにご覧いただこうと思います。この日のためにわざわざ札幌に来られる多忙な山添師、一体どんな人形芝居をお見せしてくれるのでしょうか？ ワクワドキドキです♪

キッズルームも用意してありますのでぜひお子さんやお孫さんも連れてお寺に来てみませんか。



お知らせ

## 工事のお知らせ

新善光寺では一昨年の本堂及び建物外部改修工事に引き続き、今年の5月より北側建物の外部改修工事並びに各所の内部のリノベーション工事をおこなっております。皆様のお寺参りが、より快適にできるような計画です。

工事完了は7月末の予定で、境内駐車場のスペースが狭くなり、お参りに来られる皆様にはご不便をおかけしますが、何卒ご理解の程お願い申し上げます。  
※お参りは通常通りおこなえます。



外から



南側2階



北側へ続く廊下



北側2階（こちらが納骨堂になります）

今回も前回同様、皆様から日頃ご志納いただいている護持費やお布施などの浄財により工事をおこない、特別なご負担はいたしません。

### 《新納骨堂ができます》

現在新善光寺にあります納骨堂はほぼほぼ埋まっており、ご希望の皆様にはお待ちいただいているのが現状で、また階段があり中々お参りに伺えないという声もあります。

この現状や今後の見通しも考えて上記の工事に伴い、北側の宝珠の間を改築・改装して納骨堂にします。内装工事自体は7月末に終わりますが、納骨壇の設置につきましては年内を予定しております。納骨壇のデザインや床材や内装にこだわり、あたたかいぬくもりが感じられる作りを目指していきます。

数は300基前後、新善光寺が提案する新しいタイプの納骨堂、次号にて詳しく紹介いたします。



## 仏教にふれてみませんか

毎月1回の仏教講座ですが回を重ねる毎に色々な方に来ていただいております、中身や講座後のお菓子やDVD鑑賞など毎回変化があるように心がけております。もちろんお子様も大歓迎で、お子様向けの写経も用意しております。

通常は「写経」をおこない、7月には初めての試みであります「写仏」をおこなう予定です。毎月第4土曜日におこないますが、9月だけは第5土曜日であります30日を予定しております。



### 第15回仏教講座 「写経」

6月24日(土) 午後2時開始

●参加費500円で道具は不要です ●新善光寺セレクトのお菓子付き

7月22日(土)「写仏」、8月26日(土)「写経」、9月30日(土)「写経」

以降毎月第4土曜日開催

## 今年も秋にお寺を遊ぶイベントがありますよ

第4回鴨々川ノスタルジアを9月1日～3日にわたりおこないます。会場は新善光寺と東本願寺と中島公園の3会場。今年もそれぞれ独自の企画が目白押しです。どうぞ、ご参加ください。



### 〈新善光寺会場〉

9月1日(金) 18時半 「札幌芸者衆の踊りを見る会」

9月2日(土) 19時 「本堂で怪談朗読会」

9月3日(日) 時間未定 「坊主コレクション(仮)」

ほか「寄席」などもおこなう予定です。内容や時間は変更される場合もあります。

かもノス

検索



## 新善光寺でお葬式ができます

前号では「葬儀・法事はお寺で」というタイトルで記事にしましたが、中々反響もあり、もう少し具体的に詳しくという声がありました。記事を見て実際にお寺で法事をされた方もおられました。今回はお葬式に特化して紹介していきます。

あるお檀家様（2年前に新善光寺でご葬儀をされました）になぜ民間の斎場ではなかったのですかと聞くと「どうしてもあたたかみが無く、味気ない感じがしました。」と、また冬の時期だったのですが「特に寒いとは思いませんでした」との返答がありました。

6ページでもお知らせしました改修工事により、より快適に各会場を使うことができるかと思えます。

新善光寺では主に大小合わせて3会場を葬儀に使っていただいております。

「真珠の間」「蓮華の間」そして「本堂」です。

冷暖房完備なので宿泊することも可能で、「本堂」以外はエレベーターがあります。もちろん全会場イス席となっております。

使用料に関してはお使い方にもよりますが基本的に「真珠の間」で10万円となっております。「蓮華の間」を区切らずにご使用いただく場合は28万円となっております。あくまでも目安ですので色々なご事情がある場合等はこれに限りません。

### 「真珠の間」

～15名様程度

ごく小規模のお葬式に最適です。

今回の工事で畳からカーペットにリノベーションしますのでより快適になります。





### 「蓮華の間」

15～150名様程度

こちらのお部屋は半分に区切ることができますので20～30名様くらいのいわゆる家族葬といわれる規模のお葬式にも最適です。

今まで半分畳、もう半分はカーペットでしたが、こちらも工事で全部カーペットになります。



### 「本堂」



明治17年の開山以来多くの檀信徒様をお見送りしてきた新善光寺。お寺の荘厳な雰囲気の中で大切な方との最期の時を過ごし、お見送りしませんか。

前にご紹介した故人様への思いを込めた形の祭壇もよろしいかと思います。



どうぞ、ご不明な点やご質問はお気軽にお問い合わせください。

## 大器晩成の人～法然上人～

5月下旬は、北海道庁の八重桜が咲く頃です。八重桜は、桜の中でもわりと遅咲きの種類ではないでしょうか。浄土宗の宗祖であり、お念仏の元祖である法然上人（1133～1212）も遅咲きの方です。上人は、9歳の時に父を亡くし、故郷の岡山を離れ15歳で比叡山に登ります。それからおよそ28年間、法然上人は心に闇をかかえ、悲しみと嘆きをいただきながら、必死にお釈迦さまが説いた教えの中に救いを求めました。そしてついに43歳の春、お念仏の道を発見されたのでした。

作家の岡本かの子（1889～1939）さんは、昭和10年の『浄土』創刊号の寄稿で次のように述べています。「私が法然上人に感謝していることは、上人の迷いの間が長く思想を定められて立宗開教せられたのは、早熟早老の習慣があった当時においては、むしろ老年に数えられる四十歳以上の時であったことである。〈中略〉上人は幼時から慧悟、天才型の方でありながら、しかも四十過ぎまで宗教的求道搜索に彷徨せられたという事は、如何にその志が高く、いい加減なものでは満足せられない性質であったことを証する。真の意味の大器晩成型であられた。これにつけて自分の事を言うのはおかしいようだけれども、私も宗教に歩みを入れてから、真の安心立命を得られず、あれやこれやと随分右往左往した。そのため意外な広さを漁ったことは望外の僥倖であるが、しかし『さすらい』は辛いものである。まして、精神的生命の死活問題に係る『さすらい』は骨身にこたえる。私は嘆きのあまり、自暴自棄に陥ろうとし、懐疑の谷にうずくまり宗教を白眼視しようとした事さえあった。そういうときに慰められたのは法然上人の決定の遅かった事である。」（旧かなづかい等一部変更）

岡本さんは、ご自身の「さすらい」の体験を通して、法然上人に癒され励まされたことに感謝しています。それは法然上人も「さすらい」の末にたどり着かれたお念仏というやすらぎを得たからこそ、同じように「さすらい」の痛みを知る人の心を和ませることができるのだと拝します。

法然上人は、15歳から43歳の間おもに比叡山の黒谷という所で過ごされます。そのおよそ28年間は、つらく悶々とした日々であったことと存じます。まさに漆黒の闇の中を「さすらい」、自らの運命を恨み、葛藤の激流をいく法然上人であったと思います。この28年という歳月は、はたして無駄足だったのでしょうか。つらく険しい道のりでしたが、決して無駄ではないということを法然上人のご生涯から感じとることができます。私たちの人生には、様々な出来事が身にふりかか



比叡山黒谷の法然上人像

ります。それを無駄にするのもしないのも、私たち自身の問題です。その時はかかえきれないほどの悲しみであっても、いつかそれが人生の喜びに変わる時が訪れます。真の喜び、真の幸せとは、悲しみを通してのみ見えてくる機会であると、法然上人の生き方から学ばせていただくことができるのではないのでしょうか。

〈文：立花俊輔〉



ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話⑩

## 〈さまざまな春〉

こまきね きんしょう  
駒木根 琴生



北国に待ちに待った春がやってきた。4月17日より滞在中の友人は、雪の知らないオーストラリアに居る子ども達の為に写真を撮り続けた。中学生だった彼は、優しい父に変わっていた。

春は法然上人様の御忌法要の月だ。総本山知恩院では、4月18日より25日迄執り行われて長い歴史を守り継いでいる。20日の日中唱導師を勤める大阪不断寺さんより招かれた。福原隆宏住職様とは、増上寺布教師同期の仏縁で、昨年春彼岸法話の他に何度かうかがった寺院である。声明が響きわたり、お念仏道場を実感した。19日の法要参列にお堂に入ると大変な人だ。外陣に座した私もお念仏を同唱した。声高々で称名し終えた隣の御婦人と目が合い、合掌し合うと、満ちた思いに包まれ感謝だった。200人程が参集した20日の当日は圧巻だった。内陣中央高座の福原上人様は、堂々として立派だった。報恩の志を述べる諷誦文の声も良く聞こえた。とても心に残る尊い体験だった。奥様や娘さん達、多くのお檀家の皆様達の感動のお姿に接し、嬉し涙を拭いた。

又、今年亡き長男の38回目の春だ。

「白く冷たい雪がとけた 川は氷を割って せせらぎの音をたて 白い山は緑の山になり 動物はまた イキイキと動くようになった と同時に人間もまた ノビノビと動くようになった 全ての者が待っていた春が 今ようやくやってきたんだ」

この春の詩を残して、13歳の息子は浄土へと逝ってしまった。5月、息子の同級生達が訪ねてくれる。昭和40年生まれの彼等は、50歳を過ぎ、成人した子供達が居ると聞く。歳月は確実に進んでいる。この期間、様々な出来事が巡ってきた。何より考えてもいなかったのは出家だった。お念仏の大切さを知り救われた。悲しみの涙を越えて、同級生達を迎えられる。老いた私達に生きる力を与えてくれるだろう。



新善光寺にお世話になって16年目の春だ。3月の或る日、春彼岸供養の依頼で納骨堂に入った。昭和62年17歳で亡くなったSちゃんに続いて、63年に19歳で逝去したH君、次に52年に3か月で亡くなった女の子の供養をさせて頂いた。夫々のご両親より「毎回、寺報を読んで励まされていますよ」と有難い言葉を頂いた。子に先立たれた共通の思いが流れた。「お念仏申し続けさえすれば、亡き子供さん達に浄土で会えますよ」と法然上人様が説く確かな約束を聞いて貰った。阿弥陀仏の本願他力にお任せしてお念仏の大切さを取り継いでゆきたい。

くもかざ きんじゅうろっぽう ぎょき かね  
“雲被く 三十六峰 御忌の鐘”

シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし ⑬

前回まで2回にわたり「一枚起請文」についてお話ししました。今回お話する部分は、いよいよ浄土宗の信仰の根幹部分となる「お念仏」をお称えする為の前段部分になります。皆さんのご自宅にある「過去帳」の前書き（過去帳を最初に開くと記述されている部分）にもよく使われる偈文でもあります。では、ひも解いていきましょう。

・撰益文

「撰益文」は、浄土宗の所依經典「観無量寿経」の中にある、「真身観文」にある文言で、お念仏を称える前に阿弥陀さまのお慈悲を確認するために大切な部分としてお称えします。

偈文を図1に示します。

こうみょうへんじょう  
● 光明遍照  
ねんぶつしゅじょう  
念仏衆生

じっぼうせかい  
● 十方世界  
せつしゅふしゃ  
攝取不捨  
● ● ●

● : お鈴の打つ場所を指します。

さらに、いつものように書き下し文にしてみます。

「(如来の) 光明は遍く十方世界を照らして 念仏の衆生を 攝取して捨てたまわず」

意識はこうなります。

「阿弥陀さまの放たれるお救いの光は、すべての世界を照らして、お念仏する人々を一人をも洩らさず、すべてお救いになります。」

阿弥陀さまの極楽へとお救いくださる光明が、この現世、娑婆世界を含むあらゆる世界をくまなく照らし、お念仏をお称えする人々を必ず救い取る、ということをお釈迦様がお示しになられています。



さて、前述の通りこの偈文は、もとは「真身観文」という小経こぎょうの中の文言です。この真身観文は別名「仏身観文」ぶつしんかんもんとも言い、浄土三部経の一つである「観無量寿経」のなかに説かれる十六観の一つです。十六観とは、極楽浄土往生のために阿弥陀さまのお姿や、阿弥陀さまの国土（極楽世界）を次々と想念ずる観法のこと、そのうちの第九観の真身観は阿弥陀さまの真のお姿を心に念じることであるとしています。そのお経の中で、阿弥陀さまには数限りない尊そうい相すがた（お姿）があり、その相より数限りない光明を放たれ、その一々の光明がすべての世界を照らしてお念仏するすべての人を必ず救いとして、お捨てにならないと説かれているのです。

#### ・月かげ

ところで、皆さんは浄土宗の宗歌を知っていますか？

浄土宗歌は「月かげ」という法然上人がお詠みになった歌に、後の時代メロディーをつけたものです。

つき  
月かげの いたらぬ里さとは なけれども  
ながむる人の 心こころにぞすむ

なぜ宗歌「月かげ」のお話をするかということ、実はこの「月かげ」はこの「撰益文」のことをお詠みになったといわれているのです。

「月かげの～なけれども」の部分では、いつの世も夜の闇を照らしている月の光（月かげ）を「光明」としています。つまり、阿弥陀様のお救いの光と重ね、お念仏する人を常に照らしているとしているのです。

そして「ながむる人の 心にぞすむ」の部分では、その月の光を仰ぎ、照らされていること、その明るさに気が付くということは、お念仏を称えることによって、阿弥陀さまのお救いの光に気づき、極楽へ迎えられることへの思いがより深まる、ということなのです。

撰益文をおとなえする時は是非、法然上人が詠まれた「月かげ」のことも思い浮かべながらおとなえただけたらと思います。

次回はお念仏を一心に称える「念仏ねんぶつ一会いちえ」です。

## もうすぐお盆のおまいりです

### 職員を紹介します—総集編

あと少しすれば8月のお盆参りの時期がやってきますね。

新善光寺では8月1日～15日まで皆様のご自宅へとお参りに伺わせていただいております。

32号まで順々に職員の紹介をお手伝いに来られるお坊さんに至るまで行ないましたが、なかなか顔と名前が一致しないというのが現状ではないでしょうか。せっかくですので今一度総集編として全お坊さんを紹介していきたいと思っております。各個人の詳しいプロフィールなどはバックナンバーにてご確認いただければと思います。ご希望の方は郵送しますし、ホームページ上からもご覧いただけます。



#### 住職

おおた しんきん  
**太田 真琴**  
(昭和24年生まれ)



#### 副住職

おおた しんかい  
**太田 真海**  
(昭和59年生まれ)  
お参り地域：全般



#### 別院主管

おおた こうけん  
**太田 光顯**  
(昭和56年生まれ)  
お参り地域：  
手稲・西区ほか



#### まつお いっし **松尾 一志**

(昭和10年生まれ)  
広島出身  
お参り地域：  
南・中央区ほか



#### のぎき こうし **野崎 幸史**

(昭和25年生まれ)  
標茶出身  
お参り地域：  
石狩・江別・厚別区ほか



#### そうかわ しんしょう **宗川 信章**

(昭和39年生まれ)  
寿都出身  
お参り地域：  
北広島・清田・豊平区ほか



#### ほりうち かずき **堀内 和紀**

(昭和47年生まれ)  
札幌出身  
豊平・善道寺住職  
お参り地域：豊平区ほか



#### たちばな しゅんぶ **立花 俊輔**

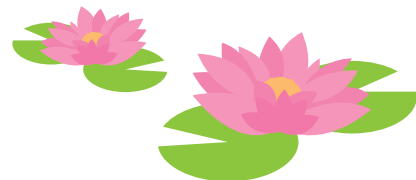
(昭和55年生まれ)  
美幌出身  
お参り地域：西・東区ほか



#### こまきね きんしょう **駒木根 琴生**

(昭和16年生まれ)  
士別出身  
内勤担当

※記載のお参り地域はお盆の時だけに限定されます。





以下の方はこのお盆期間だけお手伝いいただく方です。



いしやま ゆうどう  
**石山 祐道**  
(昭和 43 年生まれ)  
長万部出身  
お参り地域：中央区  
昨年まで新善光寺に勤めて  
いただいております、現在は長  
万部の善導寺様におります。



いわさき こうき  
**岩崎 浩基**  
(昭和 38 年生まれ)  
大阪・大應寺住職  
お参り地域：西区



まつもと けんてん  
**松本 兼典**  
(昭和 45 年生まれ)  
大阪・貞松院住職  
お参り地域：白石区



たかせ ゆうしん  
**高瀬 勇信**  
(昭和 52 年生まれ)  
東京別院・霊源寺所属  
お参り地域：北・中央区



さ さ き しゆくこう  
**佐々木 淑公**  
(昭和 36 年生まれ)  
神奈川・専念寺副住職  
内勤担当

## ニューフェイス



さ こ こうしょう  
**佐古 康祥**  
(昭和 61 年生まれ) 岐阜県・医王寺副住職  
お参り地域：北・東区

昨年より新たにお手伝いいただいております。副住職と知恩院での加行(最終修行)が同期という縁でお願いしました。2011年より4年間浄土宗開教使として南米開教区に派遣。サンパウロ日伯寺にて現地日系人を中心に開教をおこなう。趣味はジャズドラム演奏で、腕前はコンサートをおこなうほど。

皆様への各ご自宅へのお参り日程は7月中旬頃にハガキにてお知らせいたします。  
このほかにも月命日・祥月命日など随時お参りは受け付けております。どうぞ、  
お気軽にお申し付けください。

— お檀家タウンページ ~ともいき訪問⑫—

## マリヤ手芸店

今回は札幌の中心部、時計台のすぐ近くにあるマリヤ手芸店に行ってきました。

4代目社長の松村光太様、会長の松村耕一様、そして創業者の長女である松村智恵子様と親子3代に渡り、お話をお聞きすることができました。

マリヤ手芸店の創業は大正15年(1926年)、創業者の本間テイ様が生家の北海石版所の一角で開店しました。当時の写真を見るとなんとモダンな佇まいです。最初のお客様は今も現存する太黒病院の初代院長夫妻、ご婦人はフランスから来られた太黒マチルドさんといい、異国で寂しい中、佇まいに故郷を重ねたのかその後もよく来られるようになり、深い親交があったということです。「マリヤ」という名前の由来は「毬(まり)」からきていて、毛氈の材料を扱っていたから毬屋→マリヤとなったそうです。

4代目は昭和56年生まれ、昔新善光寺にあった明照幼稚園の卒園児です。札幌南高、北海道大学へと進み、本田技研に就職され、いずれはお店を継ぐという思いがありましたが、予定より早く8年前に札幌に戻られたとのこと。現在は世界各地から観光客も来られるので10カ国語の挨拶をマスターし、またインターネットショップも始められ道外から多く注文が寄せられるそうです。

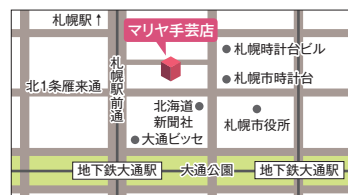
地下と1階が売り場で、手織り・手紡ぎはもとより和紙や日本人形や本に至るまで多種多様で、眺めているだけでも時間がだいぶ経過します。

脈々と札幌に続く手工芸、時計台の鐘に耳をすませて、素晴らしい世界に踏み出してみませんか？



株式会社 マリヤ手芸店

札幌市中央区北1条西3丁目 時計台前仲通  
TEL 011-221-3307 FAX 011-232-0393  
営業時間：10：00～18：00 定休日：水曜日  
HP：www.mariya3.com/





お寺の額縁を紹介します⑧

## 13 新善光寺蔵 法然上人絵伝 第二幅

前号で紹介した第一幅の次の掛け軸です。この二幅目には、法然上人（1133～1212）40代中頃から70代はじめまでの出来事が描かれています。つまり、比叡山を下りられて、賀茂の禅房（現在の京都市上京区の相国寺あたり・百万遍知恩寺の前身）や白河の禅房（現在の京都市左京区こんかいこうみょうじの金戒光明寺）または西山の広谷（現在の長岡京市）などにお住いになり、吉水のほとり（現在の京都市東山区の知恩院）に落ち着かれた頃です。京の都には、お念仏の教えが燎原の火のように広まってゆくのでした。

そんな中、文治2年（1186）法然上人54歳の時、京都・大原の勝林院にて学識の高い僧侶たちと問答することになります。その様子が下の図です。この会合の



折、法然上人は「仏教の修行は様々にあり、それぞれに尊いが、私法然のような愚かな者は、お念仏の教えでしかやすらぎを得ることはできない」とおっしゃいました。

絵伝第一幅から四幅までを6月18日の御忌法要時に特別に展示します。

しろいし幼稚園から

## 大きく育て ほとけの子

4月20日、新善光寺にしろいし幼稚園の年長組が参拝に訪れました。本堂で灯りとお花を献じ、住職のお話を聞きました。仏教保育・体験保育・健康保育の3つの教育方針を大切にして素直なやさしい心をもった多くの“ほとけさまの子”をはぐくんでいます。



学校法人新善光寺学園 しろいし幼稚園

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号

TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 Email siroisi-pippara.ed.jp

慈啓会から

## 軽費老人ホームA型 「札幌市菊寿園」の紹介

「札幌市菊寿園」は、昭和45年9月に札幌市からの受託により開設し、今年で47年目を迎えます。平成18年に指定管理施設となり、市からの補助金により運営していることから、比較的低額な料金で入居頂くことができます。60歳以上で、お一人暮らしに不安のある方や、事情によりご家族との同居が難しい方が、必要に応じて外部のサービスを利用しながら生活できる定員50名の小規模な施設です。



軽費老人ホームはA型（食事提供）とB型（自炊）がありますが、当施設はA型で、食事代も利用料金に含まれています。居室は単身部屋と二人部屋（ご夫婦・ご兄弟、ご姉妹、親子可）がございます。

札幌中心部まで地下鉄で約5分と立地にも恵まれ、病院が隣接しており商業施設も近く、入所後も孤立した環境に置かれる心配なく、豊かな生活を継続して頂くことが可能な施設です。

食事面では、管理栄養士が健康面を考慮したバランスのとれた食事を提供し、ご馳走の日や誕生会など季節ごとの行事食が毎月楽しめます。医療面では、嘱託医が月一度来園し診察を行い、看護師が平日常駐していることから健康相談や血圧測定なども随時行っており、入居者様の健康維持を図っております。行事・レクリエーションではバスで出かける外出行事の他に、認知症予防・体力維持のための「介護予防教室」や「カラオケ」・「ちぎり絵」といった趣味活動や、併設の乳児園との世代間交流など、活動機会も多数設けております。



入居者様に安心・安全な生活を一日も長く継続して頂けるよう、随時必要な介護保険サービスについてもアドバイスさせて頂きながら、日々の暮らしをサポートさせて頂いております。是非一度「菊寿園」にご見学にいらしてください。お待ちしております。



### 菊寿園の入所要件

- ・60歳以上の方
- ・札幌市民であり居住後原則1年以上の方
- ※生活保護の方は対象外となります

### 菊寿園の利用料月額（食事・水道料金込）

- ・4月～10月 一人部屋 62,700円  
二人部屋 59,700円（お一人あたり）
- ・11月～3月 暖房料 上記に加え 8,800円



社会福祉法人 札幌慈啓会

軽費老人ホーム 札幌市菊寿園

〒003-0805 札幌市白石区菊水5条1丁目8番14号 TEL. (011) 821-3028



## 北縁 なんでも Q & A

いつも感想や質問を投稿いただき、誠に有難うございます。皆さんの投稿は全て読ませていただいておりますが、紙面も限られておりなかなかご紹介できる機会も少ないのですが、今回は前号でお寄せいただいた感想も紹介させていただきます。

また、質問も随時受けております。匿名でも構いませんのでお寄せいただきたいと思います。

Q：仏と神についてですが、仏は先祖供養で、神は願い事を祈る対象と考えていましたが、正しい事なのでしょうか？ また、キリスト教は先祖供養や願い事が一つになっている宗教なのでしょうか。 (東区のお檀家様)

A：一般的にそのようなイメージをお持ちになるのはよくわかります。日本では明治以前まで神仏習合という信仰形態がとられており、日本の神様と仏様は大変仲良くしていました。それ故、信仰儀礼の形も仏教では葬儀や先祖供養を中心に儀礼を行い、神道では祖霊祭という葬祭はあっても、厄払いなどの祈祷や建築儀礼などを中心に行っていたようです。そのように執り行う儀式を住み分けしていましたが、神道でも死後は神様になるとされているので、先祖供養という概念があります。また、仏教でも祈願の作法はありますから、願い事を祈る儀礼があります。

しかし、キリスト教の死後は神のもとに召されるという考え方で、仏にも神にもならないので供養という概念がありません（個人を偲び、生前に感謝してはいけないという事ではありません）。願い事を祈願するという事もないので、キリスト教の儀礼は、神への祈りを捧げることに特化しているといえます。

## 前号の北縁をお読みいただき、感想をお寄せいただきました

・仏像への疑問を Q & A でお答えいただき、よく理解できました。テレビで「こころの時代」など見えています。写経のあとに取り入れていただければありがたいです。

### お寺より

現在、月一度の仏教講座では、講座が終わった後、茶話会や仏教、お寺にかんするビデオ上映も行っています。今後も色々な部分で皆さんに情報を発信していく予定です。

・葬儀や法事をお寺で行えるとの紹介が良かったです。

### お寺より

お寺では、儀式の際にしつらえるお荘厳が常設されていますので、特に法事などでは便利にご利用いただけたと思います。詳細はお気軽にお問合せください。

### 北海道新聞に載りました

3月14日の北海道新聞朝刊の「ぶらたび」というコーナーに新善光寺に関する記事が掲載されました。「歓楽街から気軽に参拝」ということで成田山新栄寺と当寺が紹介されました。海外からの観光客や御朱印帳などのブームにより新善光寺にもぎやかになってきました。お檀家の皆様もどうぞ、詳しくお寺の中を案内しますので、お越しいただければと思います。



### 東京別院より

『週刊文春』4月27日号に霊源寺の納骨堂が載りました。当納骨堂は都心から近い立地からお参りに行きやすく・お求めやすい価格に現代風のデザインといったところが売りです。

また、去る3月24日には新善光寺副住職参加のもと春彼岸法要をおこないました。東京近郊での月参り・お盆参り・年回忌法要など随時承っておりますのでよろしくお願いたします。



### 訃報

平成3年からおよそ20年間、当寺に勤務していた加藤正導師が、平成29年3月20日に世寿89歳をもってお浄土へと往かれました。加藤師は、お寺ではおもに内勤として寺務にいそしみ、社会福祉法人さっぽろ慈啓会においては、評議員として尽力くださいました。

ここに加藤師の往生を想い、お念仏の声を呈したく存じます。

善蓮社立譽上人慈教正導和尚 普賢行願究竟円満

### 編集後記

今年は改修工事や宮の沢別院の独立など色々なことが目白押しで忙しくなりそうな予感です。また、昨年4月からはじめた仏教講座も好評でうれしい限りです。それ以外にも参加している鴨々川ノスタルジアなどもあり、お寺をどんどん活用していき地域が盛り上がればなおのことです。どうぞ、様々なご意見たまわれば幸いです。

次回は10月発行予定です。それまではホームページ・ブログ・ツイッターなど各種SNSにて情報を更新していきます。そちらもよろしくお願いたします。

(海)